

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十二月度 入選句（投稿総数三千六百六句・一般投句数七百五十六句）

特選 選者 名和 永山

細香の漢詩の朱筆 冬ぬくし 養老郡養老町 田中 紫香

「細香」は「江馬細香」で、大垣藩医の家に生まれ三絶（詩・書・画）でした。「大垣 奥の細道むすびの地記念館」に、多くの作品が展示されています。漢詩をながめると、漢字ばかりであるせいか、硬さを覚えます。そこに朱筆が加わり、ほっとした気分になった作者の心情が詠われています。筆字の黒い中にある「朱」。色の暖かさに加え、朱筆される人の思いやりもまた温かさを感じさせてくれます。「漢詩」「朱筆」「冬ぬくし」のそれぞれが、内容を「層深くしています」。

薄墨の にじみて み空 冬はじめ 岐阜市 島 めぐみ

いよいよ冬がやって来ます。空は、雪雲ではなく薄い雲が広がってきます。丁度、薄い墨が空に滲むように広がってきたのです。

「冬の雲」は、歳時記では「シベリア高気圧から吹いてくる冷たい北西風が海を渡るとき、大量の水蒸気を含んで日本海上で雪雲に成長する。雪雲は暗いが、雪を落とした太平洋側では、風に飛ばされて梢の上を行く積雲は明るい」

「冬はじめ」だから雪雲にはならない明るい雲の広がりを、詩的感觉で詠ったところがよい。

幸せを かくし 味とし 煮大根 不破郡垂井町 児玉 信子

「かくし味」は表に出ないほどのほんの少量の調味料を活かして料理の味を引き立てる。「幸せ」がかくし味になるのなら、どんな料理でも美味しくしてしまおうである。また、その料理が「煮大根」であるのがよい。単なる調味料だけではなく、火加減や味がしみるまでの時間など「幸せのかくし味」は料理をする人の心でもあろう。「幸せをかくし味にした煮大根」を、是非食したいものである。

秀逸

品の良き指のこなしや衣被ぎ 大垣市 多和田 一徳

献灯の累々とあり石露の花 岐阜市 小湊 順子

去年今年闇に一燈をろがめり 岐阜市 堀江 美州

極月の秒針遅々と待合室 大垣市 佐藤 すみ子

みくじ結ふ綱のたるみし小春の日 大垣市 野村 多佳子

蒼白き命を引きて雪蛍 安八郡神戸町 高橋 泰

両の手に包んでみたる冬木の芽 海津市 横井 美圭

葦を刈る小さき老婆の見えかくれ 大垣市 安田 むっこ

淋しくも自由もありぬ鴨一羽 揖斐郡大野町 藤田 涼子

茶の花や辛抱強き母のこと 長野県下伊那郡 長沼 まさし

入選

刺す風に向かひて伸びる雪中花
ぶつかつて裏返る波冬岬
裏表見せて落葉の吹き溜り
おでん酒部下の訃報を飲み干して
白菜の中に日差しを巻き込みて
小春日の日差しに廻る柝車
枯菊や母は日ごとに子に還る
冬日向長く正しき箒の目
小春日の庭師の缺心地よし
十二月書き込み多きカレンダー

羽島郡笠松町 易田 英明
岐阜市 伊藤 瑞実
岐阜市 宮西 美代子
岐阜市 堀江 美州
大垣市 宮脇 和子
大垣市 中山 あや子
大垣市 山田 千歌子
養老郡養老町 田中 秀子
大垣市 草野 恵子
安八郡神戸町 高橋 日出美

入選

心念をとほして光る枯尾花
ランタンは南瓜くり抜く冬館
奥飛驒の名も無き山も眠りをり
小学生の靴の片減り秋暑し
朴落葉大きく使ふ竹箒
一年の業を振り消す除夜の鐘
焼芋に口びるゆるめできを待つ
居眠りの指定の席に日脚伸ぶ
コンビニにおでん並ぶやレジの横
おでんより何よりうまし囲む顔

養老郡養老町 田中 紫香
揖斐郡池田町 五十川 直靖
大垣市 大西 誠一
大垣市 子安 浪子
大垣市 末守 節子
大垣市 セサラ・セラ
大垣市 伊藤 琴美
大垣市 谷 彩虹
大垣市 谷 睦月
大垣市 木村 一句

選者吟

哲学の序につまづけり冬銀河

永山